

十五年の絆

二年 小野穂乃花

祖父には愛犬がいます。その愛犬は、自分の力で自由に動き回ることができません。それは、若い頃に受けた手術の後遺症で、下半身不随になってしまったからです。そんな愛犬を、誰よりも思い、支え続けてきた祖父には、何にも負けない十五年の絆があります。

祖父と愛犬の思い出が一番詰まっている場所は、ソファアームです。いつもそこで、二人並んでのんびりしているのももちろん、そのソファアームには、一緒にお昼寝、一緒にご飯、一緒に遊ぶなどの、沢山の時間が刻み込まれているからです。そして何より、愛犬は自分の好きなタイミングで排泄を行うことができます。そんな愛犬が、不快な思いや病気になるまいよう、祖父は膀胱の膨らみ具合や時間を気にして、排泄のお手伝いをそのソファアームでします。これは決して簡単なことではありません。人から強くお腹を押されることは、愛犬にとって怖いことだと思ふのと同時に、祖父も、愛犬のお腹を強く押さなくてはいけない恐怖があるのだと私は思います。しかし、愛犬は力まず、祖父の腕に頭を乗せ、祖父は優しい目で愛犬を見つめながら、慣れた手つきでお腹を押していました。その瞬間、私は二人がすっかり信頼しきっているのだと感じました。

今では二人はお年寄り。昔より吠えることが少なくなった愛犬は、感情が見えにくくなったような気がするけど、いつだつて祖父の顔や手を舐め、祖父のそばから離れない。そんな愛犬からのあふれるほどの愛を、祖父はいつも感じているのだと思いました。愛犬がいるから祖父は幸せ、祖父がいるから愛犬は幸せ。互いの存在が生きる源になっていることは、私にも強く感じられます。この十五年の絆は、信頼や愛情、優しさ、思いやりなどの沢山の思いを強めてきたんだと思います。その大切な絆で、これからも仲良く幸せに過ごしてほしいです。

最近、一歳になるわんちゃんや、私たち家族に仲間入りしましたが、二人は、いつものソファアームからにぎやかな小犬を見守って楽しく過ごしています。この小犬のわんちゃんも、これから私たちと沢山の思い出を作って、強い絆で結ばれるのだと思います。あたたかな家族の土台を作ってくれている私たちの犬と、どんな時でも支え合っていきたいと思います。